

CASBEE® 名古屋

評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE 名古屋版 2016版、名古屋版 2016版 2016年7月版、名古屋版 2016版 2016年7月版
 ■使用評価ソフト: CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)ラグゼナ上前津	階数	地上14F
建設地	名古屋市中区千代田2丁目2404番	構造	RC造
用途地域	防火地域	平均居住人員	112 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅	評価の段階	竣工段階評価
竣工年	2023年3月 予定	評価の実施日	2023年2月3日
敷地面積	549 m ²	作成者	
建築面積	288 m ²	確認日	2023年2月3日
延床面積	3,448 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

= BEE1.0

★:☆☆☆☆☆ A:☆☆☆☆☆ B:☆☆☆☆☆ B:☆☆☆☆☆ C

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%

標準計算

①参照値	138	100%
②建築物の取組み	46	100%
③上記+②以外の	92	100%
④上記+	46	100%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.0

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.1

音環境	3.4
温熱環境	2.6
光・視環境	3.2
空気質環境	3.7

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.2

機能性	3.4
耐用性	2.8
対応性	3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

生物環境	2.0
まちなみ	3.0
地域性・	2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.0

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.0

建物外皮の	3.0
自然エネ	3.0
設備システ	3.0
効率的	3.0

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.1

水資源	3.4
非再生材料の	3.1
汚染物質	3.0

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.0

地球温暖化	3.0
地域環境	3.0
周辺環境	3.0

3 設計上の配慮事項		
総合	その他	
屋光や居室面積、空調環境など居住者へ快適な居住環境を提供すると共に、省水型機器を採用するなど地球環境における省エネルギーにも寄与している	特になし	
Q1 室内環境 居室及び共有スペースにおいて十分な屋光率を確保し、居室においてはカーテンと庇にて屋光を制御している。また居室面積に対して十分な自然換気有効開口面積を確保している。	Q2 サービス性能 給排水・空調の配管には耐用年数の長いものを使用するなど、更新必要年数に配慮している	Q3 室外環境(敷地内) 可能な限り緑地を設けた
LR1 エネルギー BEI: 1.00	LR2 資源・マテリアル 節水コマ等に加え省水型機器を採用	LR3 敷地外環境 駐車場において周辺環境に洪滞等が生じないように配慮をした計画としている

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

重点項目スコア・結果シート

(仮称)ラグゼナ上前津

■使用評価マニュアル:

CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル

■評価ソフト:

CASBEE_Nagoya_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する重み係数	重点項目スコア
1. 温暖化対策				3.0
LR1	エネルギー	3.0	0.4	
LR3.1	地球温暖化への配慮	3.0	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	3.0	0.05	
2. 自然共生				2.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	2.0	0.09	
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	地域性のある材料の使用※1	無	0.009
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	3.0	0.045	
3. 循環型社会				3.1
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	3.1	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	2.7	0.01875	

結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.0
2. 自然共生	評価点 = 2.3
3. 循環型社会	評価点 = 3.1

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。